

平成30年度 第2回花巻市介護保険運営協議会 会議録

- 1 開催日時 平成31年3月26日（火）午後1時～2時10分
- 2 開催場所 花巻保健センター 2階 集団指導室
- 3 出席者
 - (1) 委員 14名
橋本純子委員、菊池清委員、大原初美委員、朝倉千里委員、狩野隆史委員、伊藤芳江委員、小田島克久委員、荒谷政博委員、高橋岳志委員、上川亜矢委員、小木田勇輝委員、島山良彦委員、影山一男委員、千葉正明委員
 - (2) 欠席した委員 4名
佐々木一広委員、内館憲二委員、藤本莞爾委員、鎌田智恵子委員
 - (3) 事務局 9名
健康福祉部長 熊谷嘉哉、長寿福祉課長 佐藤拓史、健康づくり課長 及川牧雄、同課課長補佐 包括支援担当 久保田和子、同課課長補佐 介護給付・介護認定担当 佐藤ひとみ、同課包括支援係長 高橋朱里、同課高齢福祉係長 丹野久弥、同課介護認定係長 有戸裕美子、同課包括支援係上席主査 鎌田昌子
 - (4) 傍聴者
1名
 - (5) 報道関係
1名
- 4 協議事項
 - (1) 地域支援事業の状況について
 - (2) 介護保険の運営状況について
- 5 会議内容
 - (1) 開会 進行：佐藤補佐
ただいまから平成30年度第2回花巻市介護保険運営協議会を開催する。
 - (2) 挨拶
○熊谷健康福祉部長挨拶
皆様方には、年度末の何かとお忙しい中御出席をいただき感謝申し上げます。当市の介護保険事業であるが、御案内のとおり、第7期介護保険事業計画の初年度として、本年度から運営している。高齢者の現状で申し上げますと、昨年10月1日現在の高齢化率は33.4%、要介護要支援認定者数は

6,475人、うち要支援者数が1,872人、ということで、おおむね今回の第7期計画の範囲内で推移している。

事業見込みについても、当初予算104億7,000万円ほどに対して、99億6,000万円ほどであり、おおむね95%ほどの見込みである。また計画期間中に整備を予定している施設については、昨年公募をして決定したが、一部募集数に達しない部分については、4月以降にまた再公募する予定である。

今後とも、介護保険事業計画に基づいて、介護サービスが必要とする方に必要なサービスを提供する体制に努めて参りたいと思っている。委員各位には忌憚のない御意見をいただけるようお願い申し上げます。

○会長挨拶（影山委員）（本協議会会長、以下『会長』と記す。）

議員の皆さん、お忙しい中お集まりいただき、感謝申し上げます。本日は二つの議題があるので、滞りなく進めていきたい。皆様方に御協力のほどお願いしたい。

〈出席状況の報告〉（佐藤補佐）

協議に入る前に本日の会議の出席状況を報告する。委員18名中、出席者数12名であり、過半数以上の出席をいただいているため、花巻市介護保険運営協議会規則第5章第2項の規定により会議が成立することを報告させていただく。

なお本会議は花巻市審議会の会議の公開に関する指針により公開する会議となる。会議の傍聴を希望する方がある場合は、これを認めること、また、会議資料及び会議録を市のホームページで公開することを申し添える。

それでは、協議に移らせていただく。会議の議長は規則第4条第2項の規定により会長となっているため、影山会長、よろしくお願い申し上げます。

(3) 協議（影山会長）

①地域支援事業の状況について

地域支援事業の状況について、佐藤課長より説明。

〈質疑応答〉

（小田島委員）

今御報告いただいた1ページ目の部分で、資料No1の1頁の（1）介護予防・生活支援サービス事業の中の「ご近所サポーター事業」の実績が、30年度計画値に対して実績が10%ちょっとであるが、なかなか進まない要因をどのように分析しているか。これを計画値に近づけていくための方策をお聞きしたい。

（佐藤課長）

計画値1,336回に対して実績は12月現在で146回となっており、介護予防事業を使っている方が、従来の訪問介護などを継続してお使いになっているなどの要因がある。今後はケアマネジャーなどに周知を図り、平成29年度から開始の「訪問型サービスA」などの利用を促進させていきたいと考えている。

（影山会長）

先ほど小田島委員からの質問もあったが、評価指標や計画値と実績値で余りにも乖離がある。ここは当然我々も疑問に思うところであるが、なぜこんなに乖離するのかという説明が残念ながらなされなかったような気がする。

それからもう一つ、予算についてだが、例えば介護予防・日常生活支援総合事業は、平成30

年度で3億5,800万円と規模が大きいですが、それが平成31年度は3億4,700万円と縮小している。予算規模が大きくなっている事業もある中で、なぜこういうふうに変動があったのかという説明もあるとわかりやすいが、その辺はどうか。今後必要ないと考えているから予算規模を縮小したといった補足説明があると委員の我々もわかりやすい。

(佐藤課長)

平成30年度の予算は、計画策定時、実績がどれくらい出るのかわからなかった時点で立てた予算である。平成31年度については平成30年度の実績を加味して、その実績をもとに立てた予算であり、より実績に近づいたものとなっていると思っている。

(影山会長)

実績に合わせて予算規模を縮小したということも一つの説明かと思うが、不要になった事業でかつ実績が悪いから予算規模が縮小したのか、必要な予算だが単に実績が悪かっただけで、実績を増やすべきだったのか、そのあたりのところの説明をお願いしたい。

(熊谷健康福祉部長)

それでは私のほうからお答えさせていただく。

まず、29年度に策定した、いきいきプランに基づいて計画を推進していくという基本姿勢は変わらない。ただ先ほど申し上げたとおり、生活支援サービスは、地域団体の皆さんで緩和型のサービスを実施していただくというものであり、私たちは全地域でのサービスが実施されるよう、組織の立ち上げに努めてきたが、実際には、そうした組織の立ち上げは7団体となっている。

もう一つは、先ほど課長が申し上げたとおり、現行の介護サービス事業所を利用している方々の地域の方々のボランティアサービスへの移行が進まなかったというところである。30年度は、1カ月単位で20人以上の利用ということで考えていたが、現実論として、今地域団体で行っている方々は5～6人ぐらいの状況である。

さらに、昨年、地域からの話をお聞きする中で、当初の計画策定のときの伸びをそのまま維持していくのは、やはりちょっと厳しいものがあるということもあり、本来であれば計画を修正すべきだが、予算を立てるにあたっては、そうした実情と、市としての努力の部分を含めた数字とした。30年度の予算と31年度の予算の乖離の部分についてはそのような形になるところである。

ただ、会長が御心配されるとおり、市としての方向性を後退させたということではない。基本的なスタンスは変わらず、今後とも、地域団体も含めて活動がもっと活発になるように引き続き支援を行っていききたい。現在、除雪とか買い物とか病院の通院支援という「サービスB」について、宮野目地区とか太田地区、高松地区、笹間地区で動きが出ているので、そうした動きに合わせて「サービスA」のほうも利用者が増えてくれればと思っているところである。

(橋本委員)

介護予防支援サービス事業所であるが、私たち市民としては「サービスA」とか「サービスB」というふうな言い方をされても、ぴんと来ないところがある。例えば「サービスA」と「ご近所サービス事業」はほぼ同じ内容だが、そういうところの違いとか、「サービスB」というのは何なのかというところを、もう少し市民の方に、広報でも何でも使いもっとアピールしていただければわかりやすいのではないかと思いますので、この件をお聞かせ願いたい。

(熊谷健康福祉部長)

私たちが国の区分に基づいての話をさせていただいているが、「サービスA」について、地域で行う部分については「ご近所サポート事業」ということになる。資料の使い分けがわかり

にくい部分があったので、これからの会議の中で留意していきたい。

市民の皆さんへの周知については、出前講座等、引き続きさまざまな機会をとらえて、地域に出向いてサービス内容の周知に努めていきたいと思っている。

(大原初美委員)

一般介護予防事業の評価指数で、通いの場取り組み団体数が、平成30年度は102団体となっており、団体数は計画値を上回っているようだが、参加人数は、どうなっているか。厚労省・県が示した目標値があると思うが、そこに到達しているのかどうかお伺いしたい。

(久保田補佐)

活動者数については流動的だが、2,000人以上の方に活動いただいている。

国の目標値は、65歳以上いわゆる高齢者の方の1割の10%ということになっている。花巻の65歳以上の方については、10%には届いていないが、75歳以上の方については、10%を超えて活動をいただいている状況にある。

(大原初美委員)

計画値を上回っているので、ここはこのまま推移していくということになるのか、今以上にまだまだ拡大していくのか、そういう部分についてはいかがか。

(久保田補佐)

通いの場については、こちらのほうから積極的に呼びかけているというよりは口コミで広がっている状況にある。今後も、今立ち上がっている地域の支援とあわせて支援をしていきながら広がっていけばよいと考えている。

(大原初美委員)

次の保険事業の計画があるようなので、そこに反映しているのかという部分も知りたいので、これで終わりにする。

(荒谷政博委員)

家族介護継続支援事業の利用人数や、そこでとりまとめた情報があれば教えていただきたい。

(佐藤課長)

家族介護者教室は延べ人数237人、家族介護者等訪問相談事業は、1月末現在で対象者722人、訪問実人数522人、訪問延べ人数807人となっている。家族介護用品支給事業は45人となっている。

②介護保険の運営状況について

介護保険の運営状況について佐藤課長より説明。

〈質疑応答〉

(菊池清委員)

資料No.2の4ページの介護基盤整備について、施設は比較的多く整備されているのに、待機者の割合が高くなっている要因について今後分析していく必要があるとある。この要因について、簡単に結構だが、現在はどのようにお考えか。施設がさらに必要だと考えているのか、施設が必要だとなると、介護保険料もそれに伴って上がるということになるのかと思うがその辺についてお伺いしたい。

(佐藤課長)

現在、7期の計画にのっとり施設整備を進めている。平成30年4月1日時点では、待機者93人となっているが、特養3施設、グループホーム2施設、小規模多機能1施設をつくることによ

って、ある程度待機者を解消できるのではないかと思っている。今後待機者の推移を見ながら、第8期の計画を策定する際に、検討していきたいと思っている。

(菊池清委員)

今はまだ分析していないということか。

(佐藤課長)

分析は、第7期は32年度までであるので、その状況を見ながら、これからということになる。あとは今現在ある施設の御意見も聞きながら、実情に合ったものを第8期の計画としていきたいと思っている。そのときにあらためて皆様に精査していただきたいと思っているので、よろしくお願ひしたい。

(熊谷健康福祉部長)

待機者数の調査は、県が各事業所に通知し、事業所が、申し込み者について市に報告し、市で、同じ方が例えば2カ所とか3カ所に申し込みしていれば、そうした方を名寄せしてこの数字を出している。ただ、実際の早期入所の緊急度、度合いの判断が、同じになっているかということも調査したい。

基本的には施設整備によって、早期入所が必要な方が入所し、待機者が解消していくものと考えていたが、一方では緊急度の低かった方が重度化し待機者となるという現状もある。また、すでに入所している方の実際の年齢構成や介護度がどうなっているのかなど、もう少し分析していく必要があると思っている。

ただ一方では、不足する分を全て施設整備すると、保険料が上がってしまう。保険料をあまり上げない範囲の中で待機者を解消していくには、どうすべきか次の計画に向けて分析をしていく必要があると思っている。

はっきりとした分析は、7期の動きがまだ始まったばかりなので大変申し訳ないが、これからという状況である。

(狩野隆史委員)

これからの整備計画であるが、既に新しく開設した事業所で、働いてくれる職員がいなく、空きベッドが出ている状況である。それでもまだ花巻市は、公募して施設を造ろうという考えなのか、教えていただきたい。

(熊谷健康福祉部長)

本当に、介護人材確保は非常に喫緊の課題と思っている。国においても消費増税を使いながら、処遇改善の充実を図ることなので、まずは事業者には処遇改善加算を使って、働く方々の待遇改善を図っていただければと思っている。

あとは抜本的な取り組みとして、市の奨学金を使った方の返還分を支援するという制度をつくっているが、まだまだ30年度は新規の利用の方がいない状況である。いずれ施設をつくっても働く方がいないと、狩野委員のお話のとおり、空床になって待機者も解消にならないという実態もあるので、市としても介護人材の取り組みを進めていきたいと思っている。

また、特養やグループホームを第8期にまた同じ規模で整備するかどうかというのは次の検討になってくる。有料老人ホームや特定施設の整備の計画もあるので、介護を必要とする方の需要の推計に基づいて、今の施設の状況がどうなのかを見きわめながら、次の計画を立てていく必要があると思っている。

今回の7期についても、応募が募集数に達しなかったという現状は、人材確保が大変だという部分もあったかと思うので、人材確保も含めた介護事業の充実に関しても今後とも努めていかなければならないと思っている。

(伊藤芳江委員)

今の件に関連して、本当に介護人材の確保は施設でも喫緊の課題である。ハローワークを通じたりあるいは有料の紹介サイトを使ったりしても、なかなか応募がないのが実情である。

そうした中でも利用者の皆様方には、サービスをきちんと提供していきたいと考えて事業を展開していくわけだが、十分なサービスが提供できないとなると、事業の縮小ということも今後自分たちの施設の中では、考えの中に入れながら進めていかなくてはいけないと思ったりする。

そうすると、既存の施設のベッド数が空いてしまう状況もあるわけである。それなのにさらに新しい箱物を建てることにどういう意味があるのかと疑問に思う。今回7期のところで公募をこれから2カ所するというふうなところであるが、本当にこの2カ所も今後公募する必要があるのかどうなのかというところをしっかりと精査をしていただきたいので、よろしく願いしたい。

(大原初美委員)

先ほど地域支援事業の中でもちょっと質問させていただいたが、元気高齢者が多くなっていくと施設の入所者は減っていくのではないかと。今これだけの待機者数があるからそういうことはないということになるかもしれないが。

小規模多機能や地域密着型は料金的コストが高い部分があるので、住民サイドから見ると入りにくいのではないかと考える。新たな地域密着型施設を整備することにより、介護保険料は上がる、料金の高いところに入れられない方もいるということも考えていかなければいけないと感じる。

また、介護予防の部分とこの介護サービス費の決算を見て、通いの場など介護予防の部分で目標値となるところまでは市として拡大をしてやっていただきたいという希望がある。目標値には、その目標値が定まった根拠があると思うので、そこに持つてくことによって、元気高齢者が増えてくると、介護保険サービス費が下がり、介護保険料にも反映して伸びが抑えられるということがあるのではないと思う。前回もそこまでは出せないという回答をいただいたが、そこら辺のところを検証していただければと思っている。

(橋本純子委員)

資料No.2の2ページ要介護度別認定者数で、軽度の認定者数が計画を下回る割合が大きくなっているとなっている。私はこの要支援というのは見守りも入ることなのかなと思っているが、これが減ってきているということは皆さんが元気になって動いているということではないと思う。中度に移行になっているのか、それとも必要性が少なくなってきたのか、なぜ減ってきているのか疑問である。この間あるテレビ番組で、この支援のところについて、介護費用の関係から時間的に短くなってきて困っているという内容が放送されていた。花巻もそのような何か時間的な短縮があって利用者が少なくなっているのか。その辺がはっきりしなかったので質問させていただいた。

(佐藤課長)

これに関しましては、要支援1・2が、計画値よりも少なくなっているという資料である。

(佐藤補佐)

1ページで要介護認定者数の総数が計画値を若干下回っていたことから、その要因を分析するために、2ページで要介護度別で計画値と比較してみると介護度の軽い方が、年齢階級別で計画値と比較してみると、65歳～69歳の若い方が計画値を下回る傾向が大きいということがわかったという状況である。

(影山会長)

運営協議会で、施設をつくったけれども介護人材がいないということはずっと話題になっていたかと思う。人材育成のために、介護のお仕事セミナーを今回始めていただいたわけだが、これは今後、対象数や学校を増やしていくのか。さらに、奨学金の返済に市のほうで協力するという制度は、やはりもっとアピールしていただけるとよいのではないかと思うが、この介護人材の育成に関して今後どういうふうにしていくのか。

施設をつくるということも当然重要だと思うが、介護人材育成に関してもっと大きな予算措置をとるとかそういったことは、奨学金返済に優遇するということだけなのか、その辺はどうか。

(熊谷健康福祉部長)

長期的な視点で考えて、高校生に、自分の進路を考える上で何らかの参考にしていただければということで、30年度から介護のお仕事セミナーを実施した。実際現場で働いている若い人たちに講師出向いてもらい、直接訴えていただくという手法とらせていただいた。

奨学金制度であるが、奨学金を利用したい方には、こういう制度があるという事前のお知らせは全てしているので、何年か後に自分が福祉の分野を勉強し、就職となったときに、こういう制度があるから花巻に戻ってこようかなということになればと制度を組み立てている。

また、先ほどから、いろんな施設の実情もお聞きしており、そうした中での充実策を、今後検討していかなければならないと考えている。

(影山会長)

今後も、ぜひ、奨学金の返済や介護人材の育成は積極的に取り組んでいただければと思っている。ぜひ頑張ってほしい。

(菊池清委員)

新聞で、訪問介護職員の50%がパワハラやセクハラの被害に遭っているというのを見た。訪問だと女性が1人で行くことが多く、密室になる。そうすると、半分ぐらいの人が被害を受けているという報告があるそうだ。

また、余りきれいなところではなかったりということもあるようで、そういうのを見ると、ますます志す人が少なくなるのではないかと思う。だから、訪問介護職員などの声も聞くことも、必要ではないかと思った。市が直接聞くべきかどうかはわからないが、そういうことが必要なかと思う。ケアされる方、ケアする方どちらも気持ち良くてきたらよいと思った。

(6) 閉会 (佐藤課長補佐)

これをもって、平成30年度第2回花巻市介護保険運営協議会を閉会する。